科目番号	53017	分類	専門科目 臨床看護学領域	履修者	看護科学コース （看護教育・研究者プログラム）	学年
科目名	臨床看護学演習Ⅰ （ Practice of Clinical Nursing Sciences 1 ）					1 配当ｾﾒｽﾀｰ 通年

担当者	○新山　真奈美	区分	選択	単位	2	時間数	60

授業の概要および目標	学位授与の方針との関連	
【概　要】 全ての専門科目(看護教育科学、臨床看護学、応用看護学)の担当教員とのチュートリアル形式のProblem-Based Learningの演習を通して、看護界の抱える課題を明確にしたうえで、課題解決のための論理的思考力および実践力を修得する。国内外の看護全体の課題を俯瞰できる視点を育成するために、自分の所属領域に限らず全ての専門領域（看護教育科学領域、臨床看護学領域、応用看護学領域)の教員が担当することとする。 【目　標】 以下の能力を身につける。 ① 専門性を強化するための自己研鑽能力、 ② チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、医療資源の活用能力、 ③ リーダーシップ能力、 ④ 国際協力・支援に係る能力	○	1. 看護学の継承・発展を担うための研究能力
	○	2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力
	○	3. 臨床現場との連携を図りながら看護基礎教育を担うことができる能力
	○	4. 実践を行いながら学部学生の臨地実習指導、新人看護師等の現任教育、生涯教育・卒後教育への支援や指導ができる能力

授　業　計　画

回	内　容	担当教員
第1～3回	看護教育科学で取り上げる課題（1Problem/領域）を明確にする	新山
第4～6回	看護教育科学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。	
第7～10回	立案した方策を実現するための実践モデルおよび実践に必要な具体的なさまざまな手続き(要望書・陳情書の作成等)等を習得する。	
第11～13回	臨床看護学で取り上げる課題（1Problem/領域）を明確にする	
第14～16回	臨床看護学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。	
第17～20回	立案した方策を実現するための実践モデルおよび実践に必要な具体的なさまざまな手続き(要望書・陳情書の作成等)等を習得する。	
第21～23回	応用看護学で取り上げる課題（1Problem/領域）を明確にする	
第24～26回	応用看護学で取り上げた課題を解決するための、具体的な方策を立案する。	
第27～30回	立案した方策を実現するための実践モデルおよび実践に必要な具体的なさまざまな手続き(要望書・陳情書の作成等)等を習得する。	

事前・事後学習	自分の研究テーマに即した原著論文を2-3編熟読し、発表できるように準備しておく 事前学習は各1時間、事後学習は各2時間とする。
評価の方法	出席・ディスカッションへの参加状況・最終課題レポートで評価する。 フィードバックは適宜行う。
参考図書・資料等	井部俊子：看護のアジェンダ,医学書院,2016. シェルドン・コーエン,atl:ソーシャルサポートの測定と介入,川島書店,2005.
備　考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。